［紙上座談会］
各業界の現状と展望について

秋田で働くという選択。

いま、秋田の企業が面白い！

秋田にはいま、様々な分野で本気で挑戦を続ける企業があります。古くからこの土地を見つめてきた会社がある一方で、県外からの誘致企業も次々と根を張り、新しい仕事や、そこでしか生まれない価値観が生まれています。選べる仕事の幅がぐんと広がったいまだからこそ、ものづくりの現場、建設業界、そしてITの分野と、それぞれの業界を率いるトップランナーの方々に集まっていただき、「秋田で働くという選択」について、ともに考えていただきました。

Q1 いま、秋田の仕事で変わってきていること

田中　誘致企業として秋田に来て9年です。自動車の電動パワーステアリングなどソフトウェアの開発拠点として、トヨタや日産、国内、海外の自動車メーカーとお仕事をしています。IT関連の会社は、サテライトとして地方でも（都会と変わらず）働ける魅力がある。コロナ禍を経てリモートワークがかなり広がり、SNSでの発信も増えました。若い世代には、秋田にもこんな会社があるんだよって、どんどんアピールをしていきたいですね。

菅原　建設業もいま、ものすごくDX化が進んでいます。いままで二人がかりでやっていた作業がスマホ一つでできるようになったり、ドローンを自分で飛ばして現場の写真を撮ったり。特に秋田と言えば、今は洋上風力発電ですね。地方にいながら、大手の総合商社やスーパーゼネコンと一緒にお仕事ができるのが面白い。それと、休みもすごく増えました。私が入社したころは年間100日くらいだったけど、今は120日を超えていて週休二日が当たり前です。

山崎　ものづくりの工場というと昔は、人件費が都会と比べて安いですよ、人が集まりやすいですよというような労働集約型でした。だけどいまは、農業をやりながら会社に勤める人がいたり、ものづくりの現場が自動化してロボットを導入されそうということをやりたいっていう人が増えたり、多様な働き方になっています。

Q2 秋田で事業を展開する魅力

吉田　秋田県内でプロトタイプを作って、そこで得た知見を全国に水平展開しています。地元と歩調を合わせて新しいものを作っていくことが重要なポイントだったりします。秋田には、秋田大学をはじめ様々な大学があります。人を採用しつつ、新しいことに取り組める環境が整っています。まずは県内で新しいものを作って、外で稼ぐ！そうして発展していければもっと楽しくなるのではないかなと思っています。

松浦　秋田県は杉の人工林保有量が全国No.1なんですよね。長く年数が経った木はちゃんと切ってあげて、製品化して価値を作ってあげて、植林をする。これは世界の潮流にも乗っている、社会貢献ができるビジネスですよ。うちは誘致企業なんですが、県外から来た社員にとって、秋田の食事はとても美味しくて満足度が高い。義務教育のレベルも高いから家族で来る方々は満足して働いてくれています。

Q3 いま、秋田が選ばれている理由

田中　冬は厳しいですが（笑）自分は日本全国をずっと異動して、秋田の環境が一番落ち着く。人間の心を豊かにするそこが大事だと思う。都会だとゴミゴミ、ギスギスするじゃないですか。働くにしても、生活するにしても何が大事なのかって言ったらやっぱり心が豊かになるっていうのが大事で、そこに将来性を見出していけたらいいかな。瞬間でもいいので、ときめくとかそういうのが大事ですよ。そういうのに巡り合いやすい環境、空気も綺麗です。

松浦　秋田は災害が少なめですね。地震も少ないし、台風も西と比べたら少ない。それに犯罪率が少ない。あとやっぱり秋田は四季にメリハリがある。すごい冬があって、春夏がある。だからだと思うんですけど、すごく地域のお祭りを大事にしている。地域のつながりはすごく感じます。

Q4 秋田で働くことの将来性

松浦　日本の木造住宅って50％は海外の木です。そこを国産材、秋田の木に置き換えたいと思っています。それにもう一つ。世界では木材から航空燃料だったり合成燃料が作れるようになって来たりしている。木材から必要なものを抽出して価値の高いものに化けさせる。世界は進んでいますが、日本はまだまだ。秋田は山林が多いので、大化けする可能性は十分にあると信じています。

吉田　秋田に来てからもったいないなぁと思うことが結構あります。新しいことにチャレンジしたい。秋田には可能性があるとまだ言い続けてきましたが、まだまだ。秋田をPRする力が足りない気がします。点である産学官の連携をもっと面にして発信していかなければならないと感じています。

山崎　製造業で言えば、特にSDGsやカーボンニュートラルの推進がありますが、秋田は風力発電や水力発電が非常に進んでいます。研究開発などもITを活用すれば秋田にいながらにしてできることは無限にあると思います。

菅原　洋上風力発電など20年、30年続く仕事に取り組んでいけると思います。インフラの老朽化対策もこれからますます重要になります。道路だけではなく農地の整備事業で、古くなった田んぼを新しくして農家さんが米を作りやすい環境づくりにも建設業としても今頑張っているところです。あと私は子育ての支援がすごく整っていたり、自然を生かした男鹿市は子育ての支援がすごくたりします。子供の幸福度が高いっていうデータもあります。

田中　可能性はその人が考えるリミットを決めちゃうとそこで終わると思う。だからある意味、無限大だっていつも思って。秋田って東西南北に広くて、例えば北に咲く花と、南に咲く花では少し違いますよね。こっちは赤色、こっちは緑色なんだよって。そういうところを拾い上げて、街も、人材も発掘できればいいなって思っています。

Q5 読者の方々へのメッセージ

田中　想像力があるからいいものができるし、良いアイデアが生まれる。いい環境、いい空気があるから、想像力ももっと豊かにできるし、それは環境が作り出すと思っているので、秋田はそういう心を豊かにできる場所ですって言いたいです。

山崎　秋田は自分に戻れる時間、ホッとできる時間を作れるのがすごく魅力です。若い方々は一度秋田以外も見て、戻ってくるという選択もいいと思う。それとこれは親御さんやおじいさん、おばあさんに伝えたいんですけど、お子さんが秋田に帰ってくる、それは必ずしも実家に入ることではないんですね。時には、距離感をもってお互いの生活パターンを重視して迎えて貰えれば、と思います。

菅原　私も学生時代は東京にいて、社会人になっても県外で過ごして秋田に戻ってきたんですが、秋田には何もないというイメージはもうとっくに消えました。すごく自分自身のQOLが上がってるなって感じます。それに建設業そのものは、担い手不足と言われていますが、それは自分が即戦力になれるチャンスだと思っています。AIが発達した今だからこそ、我々のフルーカラーといわれる仕事の価値はますます上がっています。

吉田　当社のように全国の主要地域に事業所があって、転職をしなくても都会で働く経験ができる企業もあります。秋田で就職したけど、ちょっと都会にも魅力があるなっていう人の受け皿にもなれればいいですね。

松浦　自分の故郷で働くっていうのは、すごく深い価値があると思う。その土地の強みとか文化、つながりがある人がいるというのは、働くうえでも意外と武器になったりもする。秋田に面白い会社がたくさんある。それを見つけてもらって、ぜひ一緒に秋田をみんなで盛り上げていけたらと思います。

知事メッセージ

秋田で働く。
そこには、想像以上の可能性があります。

秋田には、長年地域に根ざして発展してきた素晴らしい企業が数多く存在します。さらに近年は、多様な企業進出に加え、デジタル化やAIの活用などにより、仕事の選択肢が大きく広がっています。いま、ふるさとで働くことは、安心感を得るだけではなく、自らの未来を切り拓く「挑戦」へとつながるものです。
県では、県内企業の更なる発展と、魅力ある雇用の場の創出に全力を注いでいます。本特集で紹介する企業の姿を通じて、ご家族で「秋田で働くという選択」について、ぜひ語り合ってみてください。

秋田県知事
鈴木健太

秋田に新しい企業がどんどん増えています！

令和7年度の誘致件数は26件。IT、医療、製材、自動車関連、再生可能エネルギー関連業など、多種多様な企業が秋田で新しく事業を開始しています。

本日から
3日間連続掲載！
秋田で働くという選択。
個別企業紹介は
次のページから！

もっと知りたい“秋田で働くという選択。”
県内企業情報や就活・Aターン関連情報を掲載中！

秋田で暮らそう、働こう！
KocchAke! こっちゃ、け！
秋田県就活情報サイト

秋田県

ⓒ秋田魁新報社